

# 一般質問＝議会で市に提言したこと

## 待機児童について

本市で保育所等を申込みする人は、年々増加傾向にあります。「え、子供の数は減っているのに？」と思う方もいるかもしれませんが、それ以上に共働きの増加が著しいことが主な要因です。

今年4月1日時点で保育所等に申込みをしたけれども入所できなかった児童は 1,112人 いました。

一方で、そのうち「待機児童」として数える児童は56人です。

この差は、保育の必要性が低い次の様なケースを除いてカウントしているからです。

- ・育児休業中
  - ・求職活動休止中
  - ・企業実施の保育事業に入所中
  - ・特定の保育所のみ申込した等
- (計1,056人)

でもこの中には事実上の待機児童に近い可能性もあります(いわゆる隠れ待機児童です)。

市は待機児童を中心に保育所等整備をしていますが、**隠れ待機児童のニーズも汲んで今後整備を進めていくべき**と考えます。

## 当選のご報告

4月23日に行われた西宮市議会議員選挙におきまして2,446名の方から信託をいただき、初当選いたしました。生まれ育ったこの西宮市をこれから先、次世代にも発展させて繋いでいく覚悟でこれからも活動してまいります。


また、できるだけ分かりやすく市政を市民の皆さまに届けることも継続してまいりますので、これからもご関心を寄せていただければ嬉しいです。

松本 たかゆき

## Profile

- ▶ 1993年(平成5年)生まれ。広田幼稚園・甲東小・甲陵中 関学高・関学大(商)卒業
- ▶ 元・積水ハウス(株)勤務(営業職、人事等を担当)
- ▶ 井上雄彦さんの作品 あいみよんさんが好きです。趣味はゴルフ、バスケです。



松本 たかゆき 

E-mail: mt.shisei@gmail.com

TEL: 0798-35-3297(議員控室)

発行:西宮市議会議員 松本たかゆき



最年少×無所属

西宮市議会議員

## TOPICS

1.これからの西宮市についてのクイズ

2.議会で市に提起した問題

市職員の約9割が人事評価の真ん中に分布

保育園に入れなかった1,112人のうち、待機児童に数えるのは56人

etc...

# 松本 たかゆき

## 財政のクイズ①

実質赤字の財務体質の西宮。財政健全化に向けて本市が過去に実際行ったことは?

- A: 市役所支所の廃止
- B: 「宮っ子」の発行回数削減
- C: 保育料の引上げ・有料化
- D: 就学奨励金一部廃止
- E: 公民館使用料の見直し

## 財政のクイズ②

本市の年間の出費(常に一定かかる費用)を見た時に最も割合が高いものは?

- A: 福祉・子育て支援
- B: 借金の返済
- C: 特定の団体への補助金
- D: 人件費

答えは中面へ



**解答①** 答えはA～Eの全て。

平成18～20年頃、震災から続けられていた行財政改善の計画の中で実施されたことです。なぜこのようなことを書いたのかと言うと**今、西宮市の財政状況は極めて厳しい状況にあるから**です。

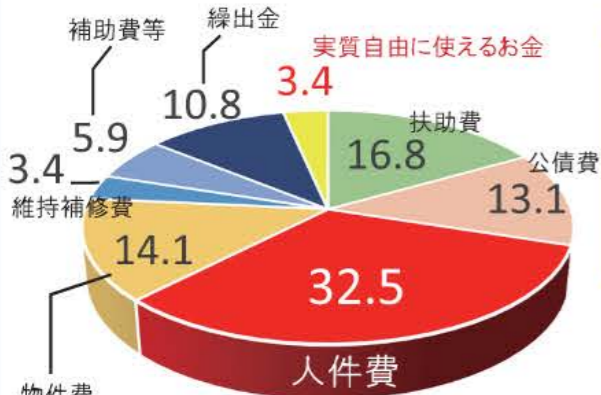
(「え、そんなこと聞いたことないけど!」という人もいます)

今の財政状況のままだと、そう遠くない未来に私達が普段何気なく受けている行政サービスに変化が起き始めるかもしれません。

※実際に財政破綻した他市では、「水道料金の値上げ」「小中学校の統合」「図書館廃止」等の行政サービスの低下が起きました。

**解答②** 答えはDの人件費。

毎年入ってくる＆自由に使えるお金のうち、その3割超が人件費にかかっています。



出典:西宮市HP「令和4年度 決算状況」記載のデータを加工 ※グラフの数字は割合(%)

- 扶助費 → 福祉や子育て支援
- 公債費 → 借金の返済
- 人件費 → 職員の給与
- 物件費 → 外部への委託
- 維持補修費 → 公共施設の維持補修
- 補助費 → 特定の団体の補助金

**ここで伝えたいこと①**

せっかく手にとってこのチラシを読んでいただいたのに、なんだか暗い話題になってしまってすみません...

しかしながら、「今の西宮市のありのままを伝えること、そしてこれからどうすべきかの知見を共有すること」は議員としてのミッションだと僕は考えています。

なので、不安を煽ってしまうことは想定しつつも書きました。

では、これからどうすれば良いのでしょうか。

下記「ここで伝えたいこと②」に続く...

**ここで伝えたいこと②**

財政状況が悪い。じゃあ入ってくるお金を増やすのか？それも大事ですが、地方自治体の性質を考えると収入増を真っ先に考えるのは△です。

**重要なことは、例年使っている費用を抑えること。**

福祉・子育て支援のお金を削られては死活問題です。当然、借金の返済も削れるものではありません。そうして見ていくと、つまるところ**見直すべきは人件費**です。今後、適切な市政運営に繋がるような人事の仕組みを市に提言していきます。

**一般質問＝議会で市に提言したこと**

**人事評価制度について**

令和4年度 阪神間 他市の人事評価分布

自治体	西宮市	A市	B市	C市	D市
評価基準					
6	0%				
5	10.3%	1%	3%		
4	83.6%	24%	19%		
3	5.5%	71%	75%	10%	33%
2	0.3%	2%	1%	80%	66%
1	0.2%	0.4%	0%	10%	0%

出典：阪神間各市 人事部門へ調査の上、作成 ※ 具体的な自治体名は調査先市町村の意向により伏せています。 ※ 評価対象は管理職より下（係長級以下）です。

左下の表は本市と阪神間他市の人事評価分布(令和4年度)です。ここから見えてくる問題点は大きく2つあります。

**問題点① 評価の中心化傾向**

本市は評価基準が6段階の偶数であるため中央値はありませんが、4・3が実質的な中央値です。

そして**約9割がその中央値に評価されています。**

阪神間他市と比べても本市の中心化傾向が高いことがわかりますね。

評価される側からすると「どうせ真ん中(4または3)に評価がされるからそこまで頑張らなくてもいいや」という心理が働いてしまわないでしょうか？

**問題点② 最も高い評価が一人もいない**

皆さんの職場、学校などに「この人、めっちゃできる人やな」って人、一人はいませんか？左表の対象者(本市)は2000人いるのですが、最高評価が一人もつかないという状態になっています。

これでは優秀な職員さんはモチベーション上がりませんよね...



※左記の「人件費の見直し」にも繋がる内容です。詳細はブログにも掲載しています！



約9割が中央値に評価される今の制度では、市が目指している「人材育成」「組織の活性化」を目的とした人事制度は実現できないでしょう。まずは**中心化傾向を解消すべき**と考えます。

- (改善例) ・評価段階を6段階→10段階に増やす。
- ・新たに評価項目を増やす。
- 例えば「業務改善をどれだけしたか」など